

1 記録 高知県高岡第一小学校 合田浩俊

第5回日本新たな学び方研究開発ネットワーク東京セミナーが、8月1日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。全国から約40名が参加し、参加層は行政関係者（教育長を含む）、出版業界、学校関係者は校長から教諭までという幅広さだった。会の運営はわたしたちのめざす全員活躍型で行われた（レポート持参者は発表または自己紹介及び活動報告）。

2 取り組みの紹介－発表の一部

<中学校>

★大規模校の挑戦 個性を生かせ、未来に進め、80周年の歴史とともに 京都府 木津川中学校 学校改革は、生徒から 生徒が教える授業の推進 生徒主体の授業から生徒主体の中学校へ 総合的な学習の時間➡課題解決学習を重視 SDGs世界の目指す17のゴール達成へ	★主体的・対話的で深い学びのできる生徒の育成 愛知県 青山中学校 青山中学校スタンダード 「まとめ」と整合性のある「課題」 見通しを共有する時間の設定 充実した協働的な学びの設定 まとめにつながる考察 思考を深める 理由・根拠・多面的・更新
★生徒を主語にした授業づくり 神奈川県 長沢中学校 テーマ 「自らの考えを形成し、伝え合う活動を通して主体的に学びに向かう姿」の育成 「授業祭り」を核に 教科リーダー会の開催 授業づくり集会の開催 司会原稿も 生徒に委ね	★「主体的・対話的で深い学びを目指して」 鳥取県 岩美中学校 令和6年度 全教科・全単元でループリック作成 令和7年度 全教科で2学期より単元内自由進度学習を取り入れる 令和8年度 全教科で自由進度学習を継続する

- ・校長が生徒主体の授業づくりのビジョンを示し、2023年からの実践の歩みが紹介された。一貫して「教員は生徒の伴走者」としての授業を追究し、現在は自由進度学習にも挑戦している。（鳥取）
- ・〇〇中スタンダードを作り、思考が深まる工夫を研究しながら、生徒主体の授業づくりを行っている。生徒の考える視点が増え、比較する、根拠を示すことができるようになってきている。（愛知）
- ・生徒中心の授業改革とともに、生徒会活動、委員会活動など生徒目線で見直したスクラップアンドビルドの取り組み。（京都）
- ・8年間の研究の歩みをさらに進め、すべての教育活動で「生徒活躍型」をめざし、取り組みが途絶えないように上学年が下学年に活動・文化を伝える仕組みづくりを行っている。（神奈川）

<小学校>

- ・校長がセルラーニングをできるまでの見通しと計画を職員に示し、学習リーダーを中心とする授業づくりを始めた。（高知）
- ・行政からの研究指定と並行して、ベーシック授業に取り組み、セルフ授業への挑戦で、児童が学びに向かう姿に変容した。（京都）

★学びの主語は子どもたち

京都府 恭仁小学校

令和7年度より音楽科の研究と平行して「セルフ授業研究」を実施。

令和8年度 「セルフ授業研究」2年目①キーワード提示②ちょこっと相談タイム③めあてを選ばせる

*2学期中に全学年1本セルフ授業を行う予定



2040時代を生きる 今の子どもたちのために 授業観が変わる・変える その具体的なヒントが このセミナーにはある

Onogo Elementary school2026

異動先1年目の苦悩

- ・全教科で学習リーダーが進行
- ・活発的な学び合い
- ・活動型の授業

- ・ほとんどが講義型
- ・50分間自分の席から動かない
- ・班隊形になることも少ない



2年目になって



- ・各クラス5名で、2～3名が1時間の進行を行
- ・学習リーダーがいきいきと進 行するようになった
- ・現在では課題設定は司会原稿がなくてもリーダーが授業を運営

3 課題とされたこと

- ・教科リーダーを中心にベーシックでの授業を展開していた学校から全く環境の違う教師主導があたり前の学校へ転任した先生の苦悩。
- ・校内はベーシックでの授業が定着しているが、教員間での温度差の問題。
- ・校内では継続的な取り組みが行われているが、他校への波及が課題。

4 新学習指導要領に向けて

セミナーの最後に、西留安雄先生の講評の中で、新学習指導要領はわたしたちがこれまで実践してきた方向と同じで、さらに学習者主体の活動が重視され、主体的・対話的で深い学びの主語は『子ども』であることが強調された。

【西留会長の講話から】

- ・教師は授業の伴奏者
- ・子どもが創る授業
- 主体的・対話的で深い学びの主語＝子ども
- 子どもたちが進め振り返る子どもたちの研究推進
- ・学び方の授業レベル1～レベル5設定
- レベル5 異学年・異学級セルフラーニング
- 2030 セルフラーニング 教師は学習のファシリテータ

5 運営責任者講評 高知県田野小学校 竹村和男

～全国各地で、西留メソッドを基に、新たな学び

方を追求し、研鑽を深め、子どもたち主体の学習を実践している仲間たちが、今年も集い合いました。

第5回を迎えた本研究開発ネットワーク。毎年新たな学校からの参加者を迎えつつ、日本の教育界に確かな足あとを残しています。新たな学び方に挑戦し、経験を積み、もうすでに教職員が一丸となって児童生徒が創り上げる学校を築き上げている所もあれば、これから挑み始めるという学校もあり、当研究会が掲げる「学び合いによって習得成長する教育活動」をまさに体現する研究会となりました。

真夏の中の開催でしたが、思惑予想外に過ごしやすい1日でした。そして、その気候の様になんとも豊かで清々しい気持ちになれた1日となりました。また本研究会が、これからも子どもたちの学び方の土台をしっかりと示し続けられることを、お互いが確認し合うことができた1日でした。

本会の開催にあたって、ご参加ご協力いただいた皆様方、どうもありがとうございました～。

6 次年度の開催予定

2027年7月31日（土）、国立オリンピック記念青少年総合センターを予定。